



おかむら通信 第110号

平成26年6月

ごあいさつ

みなさま、最近、日ごとに暑くなりつつありまして、真夏に起こる、熱中症の患者さんが、ちらほらいらっしゃっています。比較的短時間に体調を崩されています。この日本の気候以外の諸条件にふられて皆様の体が疲れ、体力が低下しているのかもしれませんが。院長への携帯電話（090・2332・5487）へも、ご相談のお電話が入ります。ともに、頑張り過ぎずに、ほどほどでやってゆきましょう。

今月の言葉コーナー

戦争の論理は人を完全なる独裁主義へと導く。これにたいして、非暴力の論理だけが人を民主主義へみちびく。

マハトマ・ガンジー

院長より

① 肺がんの早期発見について

日本の死因の第一位は悪性新生物です。その中で肺がんが最も多く、年間約7万人を超えています。正直に言いますと、肺レントゲン検診に比べCT検診の肺がん発見率は10倍なのです。

② 帯状疱疹ヘルペスは

頭部・顔面・胸部・腹部から下肢にかけて広範囲に起こりえますが、軽症の場合は、皮膚科などで手当ができますが、重症なケース（はじめから急激な痛み、発疹の急速な悪化、場合によっては脳炎をきたすことがあります）は、できる限り早めに神経ブロックをお勧めいたします。手当がおくれると、のちのち、辛い思いをするPHN（帯状疱疹後神経痛）に悩まされます。

③ 外科手術について

簡単な外傷、打撲、挫裂創や皮膚のしこり、異物（とげなど）、ご相談ください。

④ 下肢の血行不良、しびれ

閉塞性下肢動脈硬化症、つまり、たばこ+アルコールの長年摂取によるほとんど治らない病気、また、腰部外傷後の腰痛、血行不良、しびれには、当院外来で、腰部硬膜外神経ブロックを行っています。エックス線の透視は、使いません。

⑤ 携帯連絡

まだ気を使って頂いているようです、辛かったらご連絡ください。皆様に有用なできるだけのご指示をさせていただきます。

⑥ 喫煙による不具合について

この国がいまだにタバコによる不利な点をすべてオープンにしていません。したがって、今もテレビで、分煙のコマーシャルなどが平気で流されています。生産・販売しているほうはおそらく知っています。



